

令和 6 年度

東根市外二市一町共立衛生処理組合
地球温暖化対策実行計画（事務事業編）
取組状況報告書

令和 7 年 7 月

東根市外二市一町共立衛生処理組合

1. はじめに

組合では、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、平成 30 年 4 月に第 1 次計画となる「東根市外二市一町共立衛生処理組合 地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定し、温室効果ガスの排出削減に取り組んで参りました。その後、令和 3 年 10 月に国の「地球温暖化対策計画」が 5 年ぶりに改定されたことや 1 次計画の策定から 5 年を経たことを契機に、令和 5 年 3 月に第 2 次となる計画（以下「実行計画」という。）を策定しています。

実行計画では、計画最終年度（令和 12 年度）に事務事業に伴って排出される温室効果ガスの排出量を基準年度より、エネルギー起源で 32%、非エネルギー起源で 2.34%削減することを目標としています。また、計画の中間目標年度（令和 9 年度）ではエネルギー起源の排出量を 26.5%、非エネルギー起源の排出量を 1.28%削減することを目標に取り組んでいます。

以下、令和 6 年度の取組結果について報告します。

2. 温室効果ガス排出量の状況

（1）エネルギー起源の状況

令和 6 年度の温室効果ガス排出量は 2,742.15t-CO₂となり、基準年度の排出量と比較すると 990.45t-CO₂（26.5%）の削減となりました。また、中間目標年度の排出量と比較すると、1.93t-CO₂（0.07%）の増加となっています。排出量の主な要因である「電気使用量」については、基準年度の排出量と比較すると減少しており、また、燃料使用量については、基準年度の排出量より減少していますが、中間目標は達成できていない状況です。引き続き中間目標達成に向けて、取り組みを積み重ねていく必要があります。

表 2-1) エネルギー起源の温室効果ガス排出量

（単位：t-CO₂）

項 目		平成28年度 (基準年度)	令和 9 年度 (中間目標)	令和 6 年度					削減目標
				(実績値)	基準年度との比較		中間目標との比較		
					増減	増減率	増減	増減率	
エネルギー ー 起源	電気使用量	3, 298. 16	2, 338. 73	2, 311. 52	△ 986. 64	△ 29. 9%	△ 27. 21	△ 1. 2%	32% (26. 5%)
	燃料使用量	434. 44	401. 49	430. 63	△ 3. 81	△ 0. 9%	29. 14	7. 3%	
合 計		3, 732. 60	2, 740. 22	2, 742. 15	△ 990. 45	△ 26. 5%	1. 93	0. 07%	

（2）非エネルギー起源の状況

令和 6 年度の温室効果ガス排出量は、10,865.93t-CO₂となり、基準年度の排出量と比較すると、8,996.06t-CO₂（45.3%）の削減となりました。また、中間目標年度の排出量と比較すると、8,741.61t-CO₂（44.6%）の削減となり、目標を達成しました。これは、「一般廃棄物の焼却量」に係る排出量が大きく減少したことが主な要因です。

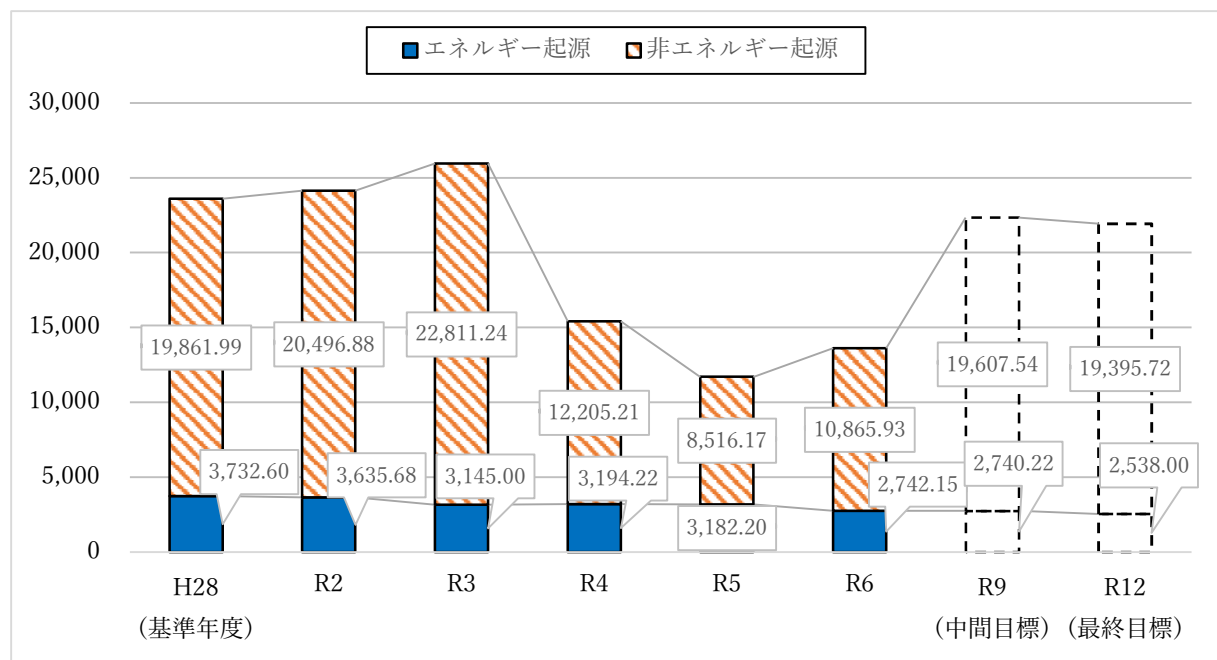
表 2-2) 非エネルギー起源の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)

項 目		平成28年度 (基準年度)	令和 9 年度 (中間目標)	令和 6 年度					削減目標
				(実績値)	基準年度との比較		中間目標との比較		
					増減	増減率	増減	増減率	
非 エ ネ ル ギ ー 起 源	一般廃棄物の焼却量	19,855.44	19,602.27	10,860.74	△ 8,994.70	△ 45.3%	△ 8,741.53	△ 44.6%	2.34% (1.27%)
	し尿の処理量	2.24	1.24	1.76	△ 0.48	△ 21.4%	0.52	41.9%	53.12% (44.64%)
	その他	4.31	4.03	3.43	△ 0.88	△ 20.4%	△ 0.60	△ 14.9%	効率的な 運転管理
合 計		19,861.99	19,607.54	10,865.93	△ 8,996.06	△ 45.3%	△ 8,741.61	△ 44.6%	2.34% (1.28%)

※削減目標の（ ）内は中間目標年度における削減目標値

表 2-3) 計画期間における温室効果ガス排出量の推移

(単位：t-CO₂)

3. 今後の取り組み

令和 6 年度は、エネルギー起源の温室効果ガス排出量が中間目標を達成できなかった一方、非エネルギー起源の温室効果ガス排出量が中間目標を達成しています。非エネルギー起源の温室効果ガス排出量は、「一般廃棄物の焼却量」に係る排出量が減少していることにより、前年度を上回っておりますが、中間目標を大きく下回る結果となりました。

非エネルギー起源の温室効果ガス排出量の大部分を占める「一般廃棄物の焼却量」は、その年度の廃棄物搬入量や廃プラスチックの組成割合に大きく左右される部分もありますが、引き続きエネルギー起源の温室効果ガス排出量の削減のため、電気・燃料等の効率的な使用と節約を心掛け、使用量の削減に努めるとともに、高効率、省エネ、低燃費に寄与する機器の積極的な導入を検討するなど、最終年度の削減目標達成に向けて取り組んで参ります。

資 料 編

令和6年度 部門ごとの温室効果ガス排出量

【組合全体】

単位：t-CO₂

温室効果ガス			年 度	平成28年度 (基準年度)	令和 5 年度 (実績値)	令和 6 年度 (実績値)	令和9年度 (中間目標値)	令和12年度 (最終目標値)	対比増減(%)				削減目標	
								基準年度	前年度	中間目標年度	最終目標年度			
エネルギー起源				3, 732. 60	3, 182. 20	2, 742. 15	2, 740. 22	2, 538. 00	△ 26. 5%	△ 13. 8%	0. 1%	8. 0%	32% (26. 5%)	
	ガソリン			6. 02	4. 11	3. 55	3. 81	3. 52	△ 41. 0%	△ 13. 6%	△ 6. 8%	0. 9%		
	灯油			23. 60	3. 11	2. 21	7. 95	7. 37	△ 90. 6%	△ 28. 9%	△ 72. 2%	△ 70. 0%		
	軽油			276. 63	301. 89	310. 14	279. 76	259. 11	12. 1%	2. 7%	10. 9%	19. 7%		
	A重油			126. 55	131. 86	113. 63	109. 37	101. 30	△ 10. 2%	△ 13. 8%	3. 9%	12. 2%		
	L P G			1. 64	1. 93	1. 10	0. 60	0. 55	△ 32. 9%	△ 43. 0%	83. 3%	100. 0%		
	電気の使用			3, 298. 16	2, 739. 30	2, 311. 52	2, 338. 73	2, 166. 15	△ 29. 9%	△ 15. 6%	△ 1. 2%	6. 7%		
非エネルギー起源				19, 861. 99	8, 516. 17	10, 865. 93	19, 607. 54	19, 395. 72	△ 45. 3%	27. 6%	△ 44. 6%	△ 44. 0%	2. 34% (1. 28%)	
	家庭用機器にお ける燃料の使用	灯油		0. 14	0. 02	0. 01	0. 06	0. 06	△ 92. 9%	△ 50. 0%	△ 83. 3%	△ 83. 3%	効率的な 運転管理	
		L P G		0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	—	—	—	—		
	自動 車 の 走 行	ガソリン	ハイブリッド車		0. 01	0. 00	0. 00	0. 00	△ 100. 0%	—	—	—		
			普通自動車		0. 05	0. 05	0. 06	0. 05	0. 05	20. 0%	20. 0%	20. 0%		20. 0%
			軽貨物車		0. 01	0. 01	0. 01	0. 01	0. 01	0. 0%	0. 0%	0. 0%		0. 0%
	軽油	普通貨物車		0. 02	0. 02	0. 01	0. 03	0. 03	△ 50. 0%	△ 50. 0%	△ 66. 7%	△ 66. 7%		
		特殊用途車		3. 41	2. 82	2. 78	3. 26	3. 26	△ 18. 5%	△ 1. 4%	△ 14. 7%	△ 14. 7%		
	一般廃棄物の焼却 (うち廃プラスチック焼却)			19, 855. 44 (19, 174. 44)	8, 510. 83 (7, 921. 76)	10, 860. 74 (10, 290. 16)	19, 602. 27 (18, 929. 96)	19, 390. 64 (18, 725. 59)	△ 45. 3% △ 46. 3%	27. 6% 29. 9%	△ 44. 6% △ 45. 6%	△ 44. 0% △ 45. 0%	2. 34% (1. 27%)	
	し尿の処理			2. 24	1. 84	1. 76	1. 24	1. 05	△ 21. 4%	△ 4. 3%	41. 9%	67. 6%	53. 12% (44. 64%)	
	自動車用エアコンディショナーの使用			0. 67	0. 58	0. 56	0. 62	0. 62	△ 16. 4%	△ 3. 4%	△ 9. 7%	△ 9. 7%	効率的な 運転管理	
合 計				23, 594. 59	11, 698. 37	13, 608. 08	22, 347. 76	21, 933. 72	△ 42. 3%	16. 3%	△ 39. 1%	△ 38. 0%		

※削減目標の（ ）内は中間目標年度における削減目標値

令和6年度 部門ごとの温室効果ガス排出量

【総務部門】

単位：t-CO₂

年 度 温室効果ガス		平成28年度 (基準年度)	令和5年度 (実績値)	令和6年度 (実績値)	令和9年度 (中間目標値)	令和12年度 (最終目標値)	対比増減(%)				削減目標		
							基準年度	前年度	中間目標年度	最終目標年度			
エネルギー起源		68.69	17.51	14.89	42.88	39.71	△ 78.3%	△ 15.0%	△ 65.3%	△ 62.5%	32% (26.5%)		
ガソリン		3.76	2.21	1.75	2.15	1.99	△ 53.5%	△ 20.8%	△ 18.6%	△ 12.1%			
灯油		16.90	0.00	0.00	5.45	5.04	△ 100.0%	－	△ 100.0%	△ 100.0%			
L P G		0.18	0.08	0.05	0.06	0.06	△ 72.2%	△ 37.5%	△ 16.7%	△ 16.7%			
電気の使用		47.85	15.22	13.09	35.22	32.62	△ 72.6%	△ 14.0%	△ 62.8%	△ 59.9%			
非エネルギー起源		0.15	0.04	0.04	0.08	0.08	△ 73.3%	0.0%	△ 50.0%	△ 50.0%	2.34% (1.28%)		
家庭用機器における燃料の使用		灯油	0.10	0.00	0.00	0.04	0.04	△ 100.0%	－	△ 100.0%	△ 100.0%	効率的な 運転管理	
		L P G	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－	－	－		
		自動車の走行（ガソリン ハイブリッド車）		0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	△ 100.0%	－	－		－
		自動車用エアコンディショナーの使用		0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%
合 計		68.84	17.55	14.93	42.96	39.79	△ 78.3%	△ 14.9%	△ 65.2%	△ 62.5%			

※削減目標の（ ）内は中間目標年度における削減目標値

令和6年度 取組状況調査票

取組状況を次の4つの中から選択しチェック欄に記入。

①実施した。実施継続中。②検討中。③該当する事業等がなかった。④実施していない。

取組項目	取組状況 チェック欄
(1) 施設設備等の運用改善	
①施設運転管理	
・効率的な施設（機器）運転に努める。	③
・機器の効率低下を防止するため、日常、月例、年次による保守点検を実施する。	③
・エネルギー使用量について、日報及び月報等の帳票による管理を行う。	③
②施設維持管理	
・機器の効率低下を防止するため、適正な管理（修繕等）に努める。	③
・配管等の漏れの改善や保温状態等を確認し効率低下防止に努める。	③
③空調設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の点検補修、フィルター等の定期的な清掃に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
・機器の使用時は出入口等を開放しないよう努める。	①
④照明設備の運用改善	
・不要な照明の消灯に努める。	①
・昼休み時間の消灯に努める。	①
⑤給湯設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
⑥その他の機器類の運用改善	
・エレベーターの利用は控え、階段を利用する。	③
・パソコン、コピー機等のOA機器の設定を省エネモードに設定するとともに、OA機器等を使用しないときは主電源オフにするよう努める。	①
・電気ポット、冷蔵庫、洗濯機等の家電製品の台数や規模の適正化に努める。	①
(2) 施設設備等の更新	
・高効率電動機や回転数制御装置等の積極的導入に努める。	③
・LED照明等の積極的導入に努める	③
・パソコンや家電等の機器類の更新の際は、省エネルギー型の製品導入に努める。	③
・施設の新築、増改築の際は、環境に配慮した工事を実施するとともに、環境負荷の低減に配慮した施設等を整備し、適切な管理に努める。	③
(3) 車両の運用改善	
・車両の適正な整備に努める。	①
・タイヤ空気圧の点検を適宜行い燃費の向上に努める。	①
・急発進、急加速はしないなどエコドライブに努める。	①
・アイドリングストップに努める。	①
・効率的な収集計画及び運搬経路の検討を行う。	①
・カーエアコンの適正な温度設定に努める。	①
・出張時には、公共交通機関を活用する。	①
・車両の更新の際は、低燃費車及び低公害車を導入する。	①
(4) 一般廃棄物焼却量の削減	
・一般廃棄物搬入量の減量及びプラスチック類の分別推進を図るため、組合市町（東根市・村山市・天童市・河北町）と協力し、ごみの分別及びリサイクル等についての広報活動を行い、ごみの減量化について、排出者への啓発・情報提供に努める。	①
(5) し尿処理施設の運転管理の効率化	
・年々減少傾向にあるし尿等収集量を考慮し、効率的な施設運転に努める。	③
(6) その他の取組	
・グリーン購入法に基づき環境配慮型商品の優先購入に努める。	①
・廃棄書類のリサイクルに努める。	①
・両面コピーを徹底する。	①
・電子媒体やWEB等の活用により紙使用の削減に努める。	①
・節水に努める。	①
・組合敷地及び施設周辺の緑地帯の維持管理や緑化に努める。	①

令和6年度 総括調査票

【 部門名:総務部門 】	
令和6年度の総括について（活動量の増減に係る事項を記入）	
前年度との比較 増加要因	LPガス：前年度より使用量が1.1kg（7.9％）増加。4月と1月の使用量が増加した。 電気の使用：前年度より使用量が1,042kwh（3.31％）増加した。 LPガス・電気とも1月の増加量が顕著であった。
前年度との比較 減少要因	ガソリン・走行距離：前年度より燃料及び走行距離とも減少。8月にインサイトからアクアに車両の入替を行った。（フィット：19.06km/ℓ→16.43km/ℓ エスティマ：10.79km/ℓ→16.37km/ℓ　アクア1：19.07km/ℓ インサイト17.49km/ℓ→22.72km/ℓ）
今年度新たに行った取組 み及び効果等	8月に車両の入替（インサイトからアクア）を行った。今後、ますますガソリンの消費削減に貢献されると思われる。
課題・問題点	
これまでの個別取組（これまで行ってきた取組みをすべて記入）	
平成30年度	給湯室の瞬間湯沸かし器を夏季は原則使用禁止する。
平成30年度	施設用ガス給湯器を1年を通じ、原則使用禁止する。
平成30年度	連絡車は平均燃費を考慮し、燃費の良い車両を優先して使用する。
平成30年度	エスティマは、多人数の移動や荷物の運搬のみの使用に努める。
令和元年度	電気ポットは基本1台使用とする。
令和4年度	空調は使用期間の指定し設定温度及びタイマー制御による省エネ運転を実施。
令和6年度	インサイトからアクアへ車両の変更
将来展望について	
施設・設備更新予定※	令和9年度に連絡者（フィットシャトル 6-2号車）の更新を予定している
増加要因	
減少要因	令和7年度総務課職員1名減（令和6年度対比）により、活動量の減少が見込まれる。

※自動車の買替、パソコンの増加、省エネ設備の導入等、活動量の増減に係る事項を記入

令和6年度 部門ごとの温室効果ガス排出量

【し尿収集部門】

単位：t-CO₂

温室効果ガス	年 度	平成28年度 (基準年度)	令和5年度 (実績値)	令和6年度 (実績値)	令和9年度 (中間目標値)	令和12年度 (最終目標値)	対比増減(%)				削減目標
							基準年度	前年度	中間目標年度	最終目標年度	
エネルギー起源		52.05	66.17	64.18	63.61	58.92	23.3%	△ 3.0%	0.9%	8.9%	32% (26.5%)
灯油		1.52	0.00	0.00	0.00	0.00	△ 100.0%	-	-	-	
軽油		50.53	66.17	64.18	63.61	58.92	27.0%	△ 3.0%	0.9%	8.9%	
非エネルギー起源		1.55	1.08	1.03	1.27	1.27	△ 33.5%	△ 4.6%	△ 18.9%	△ 18.9%	2.34% (1.28%)
家庭用機器における燃料の使用(灯油)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-	効率的な 運転管理
自動車の走行(軽油 特殊用途車)		1.34	0.92	0.89	1.10	1.10	△ 33.6%	△ 3.3%	△ 19.1%	△ 19.1%	
自動車用エアコンディショナーの使用		0.21	0.16	0.14	0.17	0.17	△ 33.3%	△ 12.5%	△ 17.6%	△ 17.6%	
合 計		53.60	67.25	65.21	64.88	60.19	21.7%	△ 3.0%	0.5%	8.3%	

※削減目標の（ ）内は中間目標年度における削減目標値

令和6年度 取組状況調査票

取組状況を次の4つの中から選択しチェック欄に記入。

①実施した。実施継続中。②検討中。③該当する事業等がなかった。④実施していない。

取組項目	取組状況 チェック欄
(1) 施設設備等の運用改善	
①施設運転管理	
・効率的な施設（機器）運転に努める。	③
・機器の効率低下を防止するため、日常、月例、年次による保守点検を実施する。	③
・エネルギー使用量について、日報及び月報等の帳票による管理を行う。	②
②施設維持管理	
・機器の効率低下を防止するため、適正な管理（修繕等）に努める。	①
・配管等の漏れの改善や保温状態等を確認し効率低下防止に努める。	①
③空調設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の点検補修、フィルター等の定期的な清掃に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
・機器の使用時は出入口等を開放しないよう努める。	①
④照明設備の運用改善	
・不要な照明の消灯に努める。	①
・昼休み時間の消灯に努める。	①
⑤給湯設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
⑥その他の機器類の運用改善	
・エレベーターの利用は控え、階段を利用する。	③
・パソコン、コピー機等のOA機器の設定を省エネモードに設定するとともに、OA機器等を使用しないときは主電源オフにするよう努める。	①
・電気ポット、冷蔵庫、洗濯機等の家電製品の台数や規模の適正化に努める。	①
(2) 施設設備等の更新	
・高効率電動機や回転数制御装置等の積極的導入に努める。	③
・LED照明等の積極的導入に努める	①
・パソコンや家電等の機器類の更新の際は、省エネルギー型の製品導入に努める。	③
・施設の新築、増改築の際は、環境に配慮した工事を実施するとともに、環境負荷の低減に配慮した施設等を整備し、適切な管理に努める。	③
(3) 車両の運用改善	
・車両の適正な整備に努める。	①
・タイヤ空気圧の点検を適宜行い燃費の向上に努める。	①
・急発進、急加速はしないなどエコドライブに努める。	①
・アイドリングストップに努める。	①
・効率的な収集計画及び運搬経路の検討を行う。	①
・カーエアコンの適正な温度設定に努める。	①
・出張時には、公共交通機関を活用する。	①
・車両の更新の際は、低燃費車及び低公害車を導入する。	②
(4) 一般廃棄物焼却量の削減	
・一般廃棄物搬入量の減量及びプラスチック類の分別推進を図るため、組合市町（東根市・村山市・天童市・河北町）と協力し、ごみの分別及びリサイクル等についての広報活動を行い、ごみの減量化について、排出者への啓発・情報提供に努める。	③
(5) し尿処理施設の運転管理の効率化	
・年々減少傾向にあるし尿等収集量を考慮し、効率的な施設運転に努める。	③
(6) その他の取組	
・グリーン購入法に基づき環境配慮型商品の優先購入に努める。	②
・廃棄書類のリサイクルに努める。	①
・両面コピーを徹底する。	①
・電子媒体やWEB等の活用により紙使用の削減に努める。	①
・節水に努める。	①
・組合敷地及び施設周辺の緑地帯の維持管理や緑化に努める。	①

令和6年度 総括調査票

【 部門名:し尿収集部門 】

令和 年度の総括について（活動量の増減に係る事項を記入）	
前年度との比較 増加要因	年間平均燃費 令和5年度：5.15km/ℓ 令和6年度：5.12km/ℓ（0.02km/ℓ） 収集件数及び収集量の減少による
前年度との比較 減少要因	し尿登録件数 令和5年度：2,948件 令和6年度：2,922件（26件） 軽油使用実績 令和5年度：25,649ℓ 令和6年度：24,875ℓ（774ℓ） 年間走行距離 令和5年度：132,023km 令和6年度：127,428km（4,595km） 収集件数及び収集量の減少による
今年度新たに行った取組 み及び効果等	
課題・問題点	収集する件数や車両台数等、実績が変動することから増減による要因の判断が困難。

これまでの個別取組（これまで行ってきた取組みをすべて記入）

将来展望について	
施設・設備更新予定※	し尿収集量及び浄化槽汚泥収集量は年々減少傾向。
増加要因	分譲住宅の仮設も突発的に増える場合がある。
減少要因	収集件数及び収集量減少に伴う軽油使用量の減少が今後も見込まれ、収集車両の減車が検討され、減少する地区により減少率の変動に違いがでてくることが考えられる。

※自動車の買替、パソコンの増加、省エネ設備の導入等、活動量の増減に係る事項を記入

令和6年度 部門ごとの温室効果ガス排出量

【し尿処理部門】

単位：t-CO₂

温室効果ガス	年 度	平成28年度 (基準年度)	令和5年度 (実績値)	令和6年度 (実績値)	令和9年度 (中間目標値)	令和12年度 (最終目標値)	対比増減(%)				削減目標
							基準年度	前年度	中間目標年度	最終目標年度	
エネルギー起源		451.19	304.18	241.88	243.17	225.22	△ 46.4%	△ 20.5%	△ 0.5%	7.4%	32% (26.5%)
ガソリン		0.00	0.05	0.05	0.03	0.03	－	0.0%	66.7%	66.7%	
軽油		1.52	1.42	1.37	1.39	1.28	△ 9.9%	△ 3.5%	△ 1.4%	7.0%	
L P G		1.25	1.59	0.83	0.30	0.27	△ 33.6%	△ 47.8%	176.7%	207.4%	
電気の使用		448.42	301.12	239.63	241.45	223.64	△ 46.6%	△ 20.4%	△ 0.8%	7.1%	
非エネルギー起源		2.27	1.88	1.80	1.28	1.09	△ 20.7%	△ 4.3%	40.6%	65.1%	2.34% (1.28%)
家庭用機器における燃料の使用(LPG)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－	－	－	効率的な 運転管理
自動車の走行（軽油 普通貨物車）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－	－	－	
し尿の処理		2.24	1.84	1.76	1.24	1.05	△ 21.4%	△ 4.3%	41.9%	67.6%	53.12% (44.64%)
自動車用エアコンディショナーの使用		0.03	0.04	0.04	0.04	0.04	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	効率的な 運転管理
合 計		453.46	306.06	243.68	244.45	226.31	△ 46.3%	△ 20.4%	△ 0.3%	7.7%	

※削減目標の（ ）内は中間目標年度における削減目標値

令和6年度 取組状況調査票

取組状況を次の4つの中から選択しチェック欄に記入。

①実施した。実施継続中。②検討中。③該当する事業等がなかった。④実施していない。

取組項目	取組状況 チェック欄
(1) 施設設備等の運用改善	
①施設運転管理	
・効率的な施設（機器）運転に努める。	①
・機器の効率低下を防止するため、日常、月例、年次による保守点検を実施する。	①
・エネルギー使用量について、日報及び月報等の帳票による管理を行う。	①
②施設維持管理	
・機器の効率低下を防止するため、適正な管理（修繕等）に努める。	①
・配管等の漏れの改善や保温状態等を確認し効率低下防止に努める。	①
③空調設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の点検補修、フィルター等の定期的な清掃に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
・機器の使用時は出入口等を開放しないよう努める。	①
④照明設備の運用改善	
・不要な照明の消灯に努める。	①
・昼休み時間の消灯に努める。	①
⑤給湯設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
⑥その他の機器類の運用改善	
・エレベーターの利用は控え、階段を利用する。	③
・パソコン、コピー機等のOA機器の設定を省エネモードに設定するとともに、OA機器等を使用しないときは主電源オフにするよう努める。	①
・電気ポット、冷蔵庫、洗濯機等の家電製品の台数や規模の適正化に努める。	①
(2) 施設設備等の更新	
・高効率電動機や回転数制御装置等の積極的導入に努める。	①
・LED照明等の積極的導入に努める	①
・パソコンや家電等の機器類の更新の際は、省エネルギー型の製品導入に努める。	①
・施設の新築、増改築の際は、環境に配慮した工事を実施するとともに、環境負荷の低減に配慮した施設等を整備し、適切な管理に努める。	④
(3) 車両の運用改善	
・車両の適正な整備に努める。	①
・タイヤ空気圧の点検を適宜行い燃費の向上に努める。	①
・急発進、急加速はしないなどエコドライブに努める。	①
・アイドリングストップに努める。	①
・効率的な収集計画及び運搬経路の検討を行う。	①
・カーエアコンの適正な温度設定に努める。	①
・出張時には、公共交通機関を活用する。	③
・車両の更新の際は、低燃費車及び低公害車を導入する。	③
(4) 一般廃棄物焼却量の削減	
・一般廃棄物搬入量の減量及びプラスチック類の分別推進を図るため、組合市町（東根市・村山市・天童市・河北町）と協力し、ごみの分別及びリサイクル等についての広報活動を行い、ごみの減量化について、排出者への啓発・情報提供に努める。	③
(5) し尿処理施設の運転管理の効率化	
・年々減少傾向にあるし尿等収集量を考慮し、効率的な施設運転に努める。	①
(6) その他の取組	
・グリーン購入法に基づき環境配慮型商品の優先購入に努める。	①
・廃棄書類のリサイクルに努める。	①
・両面コピーを徹底する。	①
・電子媒体やWEB等の活用により紙使用の削減に努める。	①
・節水に努める。	①
・組合敷地及び施設周辺の緑地帯の維持管理や緑化に努める。	①

令和6年度 総括調査票

【 部門名:し尿処理部門 】	
令和6年度の総括について（活動量の増減に係る事項を記入）	
前年度との比較 増加要因	・軽油使用量（運搬車、フォークリフト、ホイールローダー）：102.4％ 例年より降雪量が多く、除雪でホイールローダーを使用する機会が多かったため軽油使用量が増加した。 ・軽油使用量（非常用発電機）：240％ 整備後の試運転調整により軽油使用量が増加した。 ・LPG使用量：102.1％ 食堂給湯器や脱衣水手洗給湯器の使用が多かったため、LPG使用量が増加
前年度との比較 減少要因	・し尿・浄化槽汚泥搬入量：95.4％ ・電力使用量：95.6％ し尿等の搬入量の減少に比例して使用電力量も減少した。
今年度新たに行った取組み及び効果等	なし
課題・問題点	なし

これまでの個別取組（これまで行ってきた取組みをすべて記入）	
・施設運用については、換気系脱臭ファンを夕方から朝にかけてに停止し、省エネにつなげている。 ・照明及び空調設備について、夜間や休日は消灯及び省エネ運転を行っている。 ・搬入量減少に伴い週末(土、日)の設備稼働を極力抑え、省エネにつなげている。	

将来展望について	
施設・設備更新予定※	なし
増加要因	降水量の増加による下釜最終処分場浸出水増加分処理に伴う電気使用量の増加が懸念される
減少要因	設備更新時に省エネ効果の高い設備（高効率モーター・LED照明器具等）へ変更する

※自動車の買替、パソコンの増加、省エネ設備の導入等、活動量の増減に係る事項を記入

令和6年度 部門ごとの温室効果ガス排出量

【ごみ収集部門】

単位：t-CO₂

温室効果ガス	年 度	平成28年度 (基準年度)	令和5年度 (実績値)	令和6年度 (実績値)	令和9年度 (中間目標値)	令和12年度 (最終目標値)	対比増減(%)				削減目標
							基準年度	前年度	中間目標年度	最終目標年度	
エネルギー起源		195.09	213.93	213.41	187.38	173.55	9.4%	△ 0.2%	13.9%	23.0%	32% (26.5%)
軽油		195.09	213.93	213.41	187.38	173.55	9.4%	△ 0.2%	13.9%	23.0%	
非エネルギー起源		2.26	2.07	2.06	2.35	2.35	△ 8.8%	△ 0.5%	△ 12.3%	△ 12.3%	2.34% (1.28%)
自動車の走行（軽油 特殊用途車）		2.07	1.90	1.89	2.16	2.16	△ 8.7%	△ 0.5%	△ 12.5%	△ 12.5%	効率的な 運転管理
自動車用エアコンディショナーの使用		0.19	0.17	0.17	0.19	0.19	△ 10.5%	0.0%	△ 10.5%	△ 10.5%	
合 計		197.35	216.00	215.47	189.73	175.90	9.2%	△ 0.2%	13.6%	22.5%	

※削減目標の（ ）内は中間目標年度における削減目標値

令和6年度 取組状況調査票

取組状況を次の4つの中から選択しチェック欄に記入。

①実施した。実施継続中。②検討中。③該当する事業等がなかった。④実施していない。

取組項目	取組状況 チェック欄
(1) 施設設備等の運用改善	
①施設運転管理	
・効率的な施設（機器）運転に努める。	③
・機器の効率低下を防止するため、日常、月例、年次による保守点検を実施する。	③
・エネルギー使用量について、日報及び月報等の帳票による管理を行う。	③
②施設維持管理	
・機器の効率低下を防止するため、適正な管理（修繕等）に努める。	③
・配管等の漏れの改善や保温状態等を確認し効率低下防止に努める。	③
③空調設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の点検補修、フィルター等の定期的な清掃に努める。	③
・機器の不必要な使用を控える。	①
・機器の使用時は出入口等を開放しないよう努める。	①
④照明設備の運用改善	
・不要な照明の消灯に努める。	①
・昼休み時間の消灯に努める。	①
⑤給湯設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
⑥その他の機器類の運用改善	
・エレベーターの利用は控え、階段を利用する。	①
・パソコン、コピー機等のOA機器の設定を省エネモードに設定するとともに、OA機器等を使用しないときは主電源オフにするよう努める。	①
・電気ポット、冷蔵庫、洗濯機等の家電製品の台数や規模の適正化に努める。	①
(2) 施設設備等の更新	
・高効率電動機や回転数制御装置等の積極的導入に努める。	③
・LED照明等の積極的導入に努める	③
・パソコンや家電等の機器類の更新の際は、省エネルギー型の製品導入に努める。	③
・施設の新築、増改築の際は、環境に配慮した工事を実施するとともに、環境負荷の低減に配慮した施設等を整備し、適切な管理に努める。	③
(3) 車両の運用改善	
・車両の適正な整備に努める。	①
・タイヤ空気圧の点検を適宜行い燃費の向上に努める。	①
・急発進、急加速はしないなどエコドライブに努める。	①
・アイドリングストップに努める。	①
・効率的な収集計画及び運搬経路の検討を行う。	①
・カーエアコンの適正な温度設定に努める。	①
・出張時には、公共交通機関を活用する。	①
・車両の更新の際は、低燃費車及び低公害車を導入する。	①
(4) 一般廃棄物焼却量の削減	
・一般廃棄物搬入量の減量及びプラスチック類の分別推進を図るため、組合市町（東根市・村山市・天童市・河北町）と協力し、ごみの分別及びリサイクル等についての広報活動を行い、ごみの減量化について、排出者への啓発・情報提供に努める。	③
(5) し尿処理施設の運転管理の効率化	
・年々減少傾向にあるし尿等収集量を考慮し、効率的な施設運転に努める。	③
(6) その他の取組	
・グリーン購入法に基づき環境配慮型商品の優先購入に努める。	①
・廃棄書類のリサイクルに努める。	①
・両面コピーを徹底する。	①
・電子媒体やWEB等の活用により紙使用の削減に努める。	①
・節水に努める。	①
・組合敷地及び施設周辺の緑地帯の維持管理や緑化に努める。	③

令和6年度 総括調査票

【 部門名:ごみ収集部門 】

令和 年度の総括について（活動量の増減に係る事項を記入）	
前年度との比較 増加要因	もやせるごみの収集日数が昨年度より1日多かったこと、ステーション数の増加に伴い増加したものと推察される。
前年度との比較 減少要因	
今年度新たに行った取組 み及び効果等	
課題・問題点	分譲地やアパートの増加に伴い、ステーション数が増加し、作業量の増加が見込まれる。

これまでの個別取組（これまで行ってきた取組みをすべて記入）
追加記入してください ・効率的な収集経路となるよう、随時、見直しを図っている。

将来展望について	
施設・設備更新予定※	
増加要因	
減少要因	

※自動車の買替、パソコンの増加、省エネ設備の導入等、活動量の増減に係る事項を記入

令和6年度 部門ごとの温室効果ガス排出量

【ごみ焼却処理部門】

単位：t-CO₂

温室効果ガス	年 度	平成28年度	令和5年度	令和6年度	令和9年度	令和12年度	対比増減(%)				削減目標
		(基準年度)	(実績値)	(実績値)	(中間目標値)	(最終目標値)	基準年度	前年度	中間目標年度	最終目標年度	
エネルギー起源		2, 591. 01	2, 272. 16	1, 940. 29	1, 926. 93	1, 784. 73	△ 25. 1%	△ 14. 6%	0. 7%	8. 7%	32% (26. 5%)
ガソリン		0. 00	0. 00	0. 00	0. 06	0. 05	－	－	△ 100. 0%	△ 100. 0%	
灯油		3. 18	1. 77	0. 92	1. 86	1. 73	△ 71. 1%	△ 48. 0%	△ 50. 5%	△ 46. 8%	
軽油		2. 36	0. 91	13. 49	2. 20	2. 04	471. 6%	1382. 4%	513. 2%	561. 3%	
A重油		98. 66	113. 45	96. 76	92. 87	86. 02	△ 1. 9%	△ 14. 7%	4. 2%	12. 5%	
L P G		0. 19	0. 22	0. 21	0. 23	0. 21	10. 5%	△ 4. 5%	△ 8. 7%	0. 0%	
電気の使用		2, 486. 62	2, 155. 81	1, 828. 91	1, 829. 71	1, 694. 68	△ 26. 4%	△ 15. 2%	△ 0. 0%	7. 9%	
非エネルギー起源		19, 855. 50	8, 510. 87	10, 860. 77	19, 602. 33	19, 390. 70	△ 45. 3%	27. 6%	△ 44. 6%	△ 44. 0%	2. 34% (1. 28%)
家庭用機器における燃料の使用	灯油	0. 02	0. 01	0. 00	0. 02	0. 02	△ 100. 0%	△ 100. 0%	△ 100. 0%	△ 100. 0%	効率的な 運転管理
	L P G	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	－	－	－	－	
自動車の走行（軽油 普通貨物車）		0. 01	0. 00	0. 00	0. 01	0. 01	△ 100. 0%	－	△ 100. 0%	△ 100. 0%	
一般廃棄物の焼却 （内、廃プラの焼却）		19, 855. 44 (19, 174. 44)	8, 510. 83 (7, 921. 76)	10, 860. 74 (10, 290. 16)	19, 602. 27 (18, 929. 96)	19, 390. 64 (18, 725. 59)	△ 45. 3% △ 46. 3%	27. 6% 29. 9%	△ 44. 6% △ 45. 6%	△ 44. 0% △ 45. 0%	2. 34% (1. 27%)
自動車用エアコンディショナーの使用		0. 03	0. 03	0. 03	0. 03	0. 03	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	効率的な 運転管理
合 計		22, 446. 51	10, 783. 03	12, 801. 06	21, 529. 26	21, 175. 43	△ 43. 0%	18. 7%	△ 40. 5%	△ 39. 5%	

※削減目標の（ ）内は中間目標年度における削減目標値

取組状況を次の4つの中から選択しチェック欄に記入。

①実施した。実施継続中。②検討中。③該当する事業等がなかった。④実施していない。

取組項目	取組状況 チェック欄
(1) 施設設備等の運用改善	
①施設運転管理	
・効率的な施設（機器）運転に努める。	①
・機器の効率低下を防止するため、日常、月例、年次による保守点検を実施する。	①
・エネルギー使用量について、日報及び月報等の帳票による管理を行う。	①
②施設維持管理	
・機器の効率低下を防止するため、適正な管理（修繕等）に努める。	①
・配管等の漏れの改善や保温状態等を確認し効率低下防止に努める。	④
③空調設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の点検補修、フィルター等の定期的な清掃に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
・機器の使用時は出入口等を開放しないよう努める。	①
④照明設備の運用改善	
・不要な照明の消灯に努める。	①
・昼休み時間の消灯に努める。	①
⑤給湯設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
⑥その他の機器類の運用改善	
・エレベーターの利用は控え、階段を利用する。	①
・パソコン、コピー機等のOA機器の設定を省エネモードに設定するとともに、OA機器等を使用しないときは主電源オフにするよう努める。	①
・電気ポット、冷蔵庫、洗濯機等の家電製品の台数や規模の適正化に努める。	①
(2) 施設設備等の更新	
・高効率電動機や回転数制御装置等の積極的導入に努める。	①
・LED照明等の積極的導入に努める	①
・パソコンや家電等の機器類の更新の際は、省エネルギー型の製品導入に努める。	①
・施設の新築、増改築の際は、環境に配慮した工事を実施するとともに、環境負荷の低減に配慮した施設等を整備し、適切な管理に努める。	①
(3) 車両の運用改善	
・車両の適正な整備に努める。	①
・タイヤ空気圧の点検を適宜行い燃費の向上に努める。	①
・急発進、急加速はしないなどエコドライブに努める。	①
・アイドリングストップに努める。	①
・効率的な収集計画及び運搬経路の検討を行う。	④
・カーエアコンの適正な温度設定に努める。	①
・出張時には、公共交通機関を活用する。	①
・車両の更新の際は、低燃費車及び低公害車を導入する。	②
(4) 一般廃棄物焼却量の削減	
・一般廃棄物搬入量の減量及びプラスチック類の分別推進を図るため、組合市町（東根市・村山市・天童市・河北町）と協力し、ごみの分別及びリサイクル等についての広報活動を行い、ごみの減量化について、排出者への啓発・情報提供に努める。	③
(5) し尿処理施設の運転管理の効率化	
・年々減少傾向にあるし尿等収集量を考慮し、効率的な施設運転に努める。	③
(6) その他の取組	
・グリーン購入法に基づき環境配慮型商品の優先購入に努める。	①
・廃棄書類のリサイクルに努める。	①
・両面コピーを徹底する。	①
・電子媒体やWEB等の活用により紙使用の削減に努める。	①
・節水に努める。	①
・組合敷地及び施設周辺の緑地帯の維持管理や緑化に努める。	①

令和6年度 総括調査票

【 部門名:ごみ焼却処理部門 】

令和6年度の総括について（活動量の増減に係る事項を記入）	
前年度との比較 増加要因	・焼却量 37,906.68t（前年比96.9％） →ごみ搬入量の減によるもの ・軽油（エンジンコンプレッサー用）4,892L →エンジンコンプレッサーの燃料。（雑用空気圧縮機が破損したため代用とし賃借）
前年度との比較 減少要因	・A重油 35,705L（83.9％） →炉補修が前年度より少なかったため乾燥焚きに使用する重油が減少した
今年度新たに行った取組 み及び効果等	なし
課題・問題点	なし

これまでの個別取組（これまで行ってきた取組みをすべて記入）	

将来展望について	
施設・設備更新予定※	雑用空気圧縮機更新（令和8年度予定）
増加要因	高効率電動機による省エネルギー化が図られる。
減少要因	なし

※自動車の買替、パソコンの増加、省エネ設備の導入等、活動量の増減に係る事項を記入

令和6年度 部門ごとの温室効果ガス排出量

【粗大ごみ処理部門】

単位：t-CO₂

温室効果ガス		年 度	平成28年度 (基準年度)	令和5年度 (実績値)	令和6年度 (実績値)	令和9年度 (中間目標値)	令和12年度 (最終目標値)	対比増減(%)				削減目標
								基準年度	前年度	中間目標年度	最終目標年度	
エネルギー起源			212.80	183.64	157.26	161.52	149.61	△ 26.1%	△ 14.4%	△ 2.6%	5.1%	32% (26.5%)
	ガソリン		2.19	1.77	1.70	1.46	1.35	△ 22.4%	△ 4.0%	16.4%	25.9%	
	灯油		2.00	1.34	1.29	0.64	0.60	△ 35.5%	△ 3.7%	101.6%	115.0%	
	軽油		16.95	12.50	11.00	17.36	16.08	△ 35.1%	△ 12.0%	△ 36.6%	△ 31.6%	
	A重油		27.89	18.41	16.87	16.50	15.28	△ 39.5%	△ 8.4%	2.2%	10.4%	
	L P G		0.02	0.04	0.01	0.01	0.01	△ 50.0%	△ 75.0%	0.0%	0.0%	
	電気の使用		163.75	149.58	126.39	125.55	116.29	△ 22.8%	△ 15.5%	0.7%	8.7%	
非エネルギー起源			0.21	0.18	0.18	0.18	0.18	△ 14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.34% (1.28%)
自動車 の 走行	家庭用機器にお ける燃料の使用	灯油	0.02	0.01	0.01	0.00	0.00	△ 50.0%	0.0%	-	-	効率的な 運転管理
		L P G	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-	
	ガソリン	普通自動車	0.05	0.05	0.06	0.05	0.05	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	
		軽貨物車	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	軽油	普通貨物車	0.00	0.01	0.00	0.01	0.01	-	△ 100.0%	△ 100.0%	△ 100.0%	
		特殊用途車	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-	
	自動車用エアコンディショナーの使用		0.13	0.10	0.10	0.11	0.11	△ 23.1%	0.0%	△ 9.1%	△ 9.1%	
合 計			213.01	183.82	157.44	161.70	149.79	△ 26.1%	△ 14.4%	△ 2.6%	5.1%	

※削減目標の（ ）内は中間目標年度における削減目標値

取組状況を次の4つの中から選択しチェック欄に記入。

①実施した。実施継続中。②検討中。③該当する事業等がなかった。④実施していない。

取組項目	取組状況 チェック欄
(1) 施設設備等の運用改善	
①施設運転管理	
・効率的な施設（機器）運転に努める。	①
・機器の効率低下を防止するため、日常、月例、年次による保守点検を実施する。	①
・エネルギー使用量について、日報及び月報等の帳票による管理を行う。	①
②施設維持管理	
・機器の効率低下を防止するため、適正な管理（修繕等）に努める。	①
・配管等の漏れの改善や保温状態を確認し効率低下防止に努める。	①
③空調設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の点検補修、フィルター等の定期的な清掃に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
・機器の使用時は出入口等を開放しないよう努める。	①
④照明設備の運用改善	
・不要な照明の消灯に努める。	①
・昼休み時間の消灯に努める。	①
⑤給湯設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
⑥その他の機器類の運用改善	
・エレベーターの利用は控え、階段を利用する。	③
・パソコン、コピー機等のOA機器の設定を省エネモードに設定するとともに、OA機器等を使用しないときは主電源オフにするよう努める。	①
・電気ポット、冷蔵庫、洗濯機等の家電製品の台数や規模の適正化に努める。	①
(2) 施設設備等の更新	
・高効率電動機や回転数制御装置等の積極的導入に努める。	①
・LED照明等の積極的導入に努める	①
・パソコンや家電等の機器類の更新の際は、省エネルギー型の製品導入に努める。	①
・施設の新築、増築の際は、環境に配慮した工事を実施するとともに、環境負荷の低減に配慮した施設等を整備し、適切な管理に努める。	③
(3) 車両の運用改善	
・車両の適正な整備に努める。	①
・タイヤ空気圧の点検を適宜行い燃費の向上に努める。	①
・急発進、急加速はしないなどエコドライブに努める。	①
・アイドリングストップに努める。	①
・効率的な収集計画及び運搬経路の検討を行う。	③
・カーエアコンの適正な温度設定に努める。	①
・出張時には、公共交通機関を活用する。	③
・車両の更新の際は、低燃費車及び低公害車を導入する。	①
(4) 一般廃棄物焼却量の削減	
・一般廃棄物搬入量の減量及びプラスチック類の分別推進を図るため、組合市町（東根市・村山市・天童市・河北町）と協力し、ごみの分別及びリサイクル等についての広報活動を行い、ごみの減量化について、排出者への啓発・情報提供に努める。	①
(5) し尿処理施設の運転管理の効率化	
・年々減少傾向にあるし尿等収集量を考慮し、効率的な施設運転に努める。	③
(6) その他の取組	
・グリーン購入法に基づき環境配慮型商品の優先購入に努める。	①
・廃棄書類のリサイクルに努める。	①
・両面コピーを徹底する。	①
・電子媒体やWEB等の活用により紙使用の削減に努める。	①
・節水に努める。	①
・組合敷地及び施設周辺の緑地帯の維持管理や緑化に努める。	①

令和6年度 総括調査票

【 部門名:粗大ごみ処理部門 】

令和 年度の総括について（活動量の増減に係る事項を記入）	
前年度との比較 増加要因	灯油前年度比3.8%増(20L増)、電気使用量前年度比1.5%増(4,711KWh増)
前年度との比較 減少要因	ガソリン前年度比3.9%減(29.52L減)、軽油前年度比12.7%減(620L減) 重油前年度比8.3%減(567L減)、LPG前年度比63.9%減(3.9㎡減)
今年度新たに行った取組 み及び効果等	施設運転及び有価物の積み込みで使用しているホイールローダを低燃費車両に更新した
課題・問題点	なし

これまでの個別取組（これまで行ってきた取組みをすべて記入）	
令和元年～：施設内選別室用照明のLED化 現場照明は清掃及び作業を行う時だけ点灯している 令和2年～：施設運転時以外は換気設備を停止している 令和3年～：トイレ及び通路の照明を人感センサー付きの機器に更新し、消し忘れ防止に努めている ：原の内浸出水処理施設の点検回数を見直し、必要最低限度の点検頻度とした 令和4年～：下釜最終処分場で使用している油圧ショベルを低燃費車両に更新した	

将来展望について	
施設・設備更新予定※	令和7年度に施設運転で使用している油圧ショベルを低燃費車両に更新する
増加要因	燃料及び電気使用量は天候に大きく左右されるため、猛暑や大雪の年は、使用量が増加する要因となる。
減少要因	低燃費車両の導入を図ることによって、燃料消費量が減少する要因となる。

※自動車の買替、パソコンの増加、省エネ設備の導入等、活動量の増減に係る事項を記入

令和6年度 部門ごとの温室効果ガス排出量

【リサイクルセンター部門】

単位：t-CO₂

温室効果ガス	年 度	平成28年度 (基準年度)	令和5年度 (実績値)	令和6年度 (実績値)	令和9年度 (中間目標値)	令和12年度 (最終目標値)	対比増減(%)				削減目標
							基準年度	前年度	中間目標年度	最終目標年度	
エネルギー起源		161.77	124.61	110.24	114.73	106.26	△ 31.9%	△ 11.5%	△ 3.9%	3.7%	32% (26.5%)
ガソリン		0.07	0.08	0.05	0.11	0.10	△ 28.6%	△ 37.5%	△ 54.5%	△ 50.0%	
軽油		10.18	6.96	6.69	7.82	7.24	△ 34.3%	△ 3.9%	△ 14.5%	△ 7.6%	
電気の使用		151.52	117.57	103.50	106.80	98.92	△ 31.7%	△ 12.0%	△ 3.1%	4.6%	
非エネルギー起源		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.34% (1.28%)
自動車の走行（軽油 普通貨物車）		0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	効率的な 運転管理
自動車用エアコンデ ^ィ ショナ ^ー の使用		0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
合 計		161.82	124.66	110.29	114.78	106.31	△ 31.8%	△ 11.5%	△ 3.9%	3.7%	

※削減目標の（ ）内は中間目標年度における削減目標値

令和6年度 取組状況調査票

取組状況を次の4つの中から選択しチェック欄に記入。

①実施した。実施継続中。②検討中。③該当する事業等がなかった。④実施していない。

取組項目	取組状況 チェック欄
(1) 施設設備等の運用改善	
①施設運転管理	
・効率的な施設（機器）運転に努める。	①
・機器の効率低下を防止するため、日常、月例、年次による保守点検を実施する。	①
・エネルギー使用量について、日報及び月報等の帳票による管理を行う。	①
②施設維持管理	
・機器の効率低下を防止するため、適正な管理（修繕等）に努める。	①
・配管等の漏れの改善や保温状態等を確認し効率低下防止に努める。	①
③空調設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の点検補修、フィルター等の定期的な清掃に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
・機器の使用時は出入口等を開放しないよう努める。	①
④照明設備の運用改善	
・不要な照明の消灯に努める。	①
・昼休み時間の消灯に努める。	①
⑤給湯設備の運用改善	
・機器の適正な温度設定に努める。	①
・機器の不必要な使用を控える。	①
⑥その他の機器類の運用改善	
・エレベーターの利用は控え、階段を利用する。	①
・パソコン、コピー機等のOA機器の設定を省エネモードに設定するとともに、OA機器等を使用しないときは主電源オフにするよう努める。	①
・電気ポット、冷蔵庫、洗濯機等の家電製品の台数や規模の適正化に努める。	①
(2) 施設設備等の更新	
・高効率電動機や回転数制御装置等の積極的導入に努める。	②
・LED照明等の積極的導入に努める	②
・パソコンや家電等の機器類の更新の際は、省エネルギー型の製品導入に努める。	①
・施設の新築、増改築の際は、環境に配慮した工事を実施するとともに、環境負荷の低減に配慮した施設等を整備し、適切な管理に努める。	③
(3) 車両の運用改善	
・車両の適正な整備に努める。	①
・タイヤ空気圧の点検を適宜行い燃費の向上に努める。	①
・急発進、急加速はしないなどエコドライブに努める。	①
・アイドリングストップに努める。	①
・効率的な収集計画及び運搬経路の検討を行う。	①
・カーエアコンの適正な温度設定に努める。	①
・出張時には、公共交通機関を活用する。	③
・車両の更新の際は、低燃費車及び低公害車を導入する。	②
(4) 一般廃棄物焼却量の削減	
・一般廃棄物搬入量の減量及びプラスチック類の分別推進を図るため、組合市町（東根市・村山市・天童市・河北町）と協力し、ごみの分別及びリサイクル等についての広報活動を行い、ごみの減量化について、排出者への啓発・情報提供に努める。	③
(5) し尿処理施設の運転管理の効率化	
・年々減少傾向にあるし尿等収集量を考慮し、効率的な施設運転に努める。	③
(6) その他の取組	
・グリーン購入法に基づき環境配慮型商品の優先購入に努める。	①
・廃棄書類のリサイクルに努める。	①
・両面コピーを徹底する。	①
・電子媒体やWEB等の活用により紙使用の削減に努める。	①
・節水に努める。	①
・組合敷地及び施設周辺の緑地帯の維持管理や緑化に努める。	①

令和6年度 総括調査票

【 部門名:リサイクルセンター 】

令和6年度の総括について（活動量の増減に係る事項を記入）	
前年度との比較 増加要因	基準年度と比較し、電力使用量において、18,000Kwh（6.6%）の削減ができました。 昨年度（令和5年度）と比較しますと、13,880Kwh（5.7%）の増加となりました。夏の猛暑と冬の除雪量増加のため、増加したものと思われます。
前年度との比較 減少要因	
今年度新たに行った取組 み及び効果等	・使用していない電気製品等の電源遮断 ・休憩間及び処理運転を実施していない作業場の消灯 ・タイマー設定による休憩時間のみのエアコン使用 ・給湯器用エコキュートの使用禁止（電源遮断）
課題・問題点	・夏期、冬季における状況ごとの節電施策と安全対策 ・照明設備のLED化への更新

これまでの個別取組（これまで行ってきた取組みをすべて記入）	
・使用していない電気製品等の電源遮断 ・休憩間及び処理運転を実施していない作業場の消灯 ・タイマー設定による休憩時間のみのエアコン使用 ・給湯器用エコキュートの使用禁止（電源遮断）	

将来展望について	
施設・設備更新予定※	LED化への更新
増加要因	1．夏場におけるエアコン使用量の増加（安全対策） 2．除雪作業のための照明等使用量の増加 3．融雪設備等の使用期間の増加（施設機械等の保護）
減少要因	

※自動車の買替、パソコンの増加、省エネ設備の導入等、活動量の増減に係る事項を記入